

開通区間概要

●首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化・環境改善、沿線都市間の連絡強化等を目的とした都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。今回開通区間を含めて、現在までに約200kmが開通しています。

●今回開通区間の概要

路線名：首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

開通区間：寒川北IC（高座郡寒川町宮山）～海老名JCT（海老名市社家）

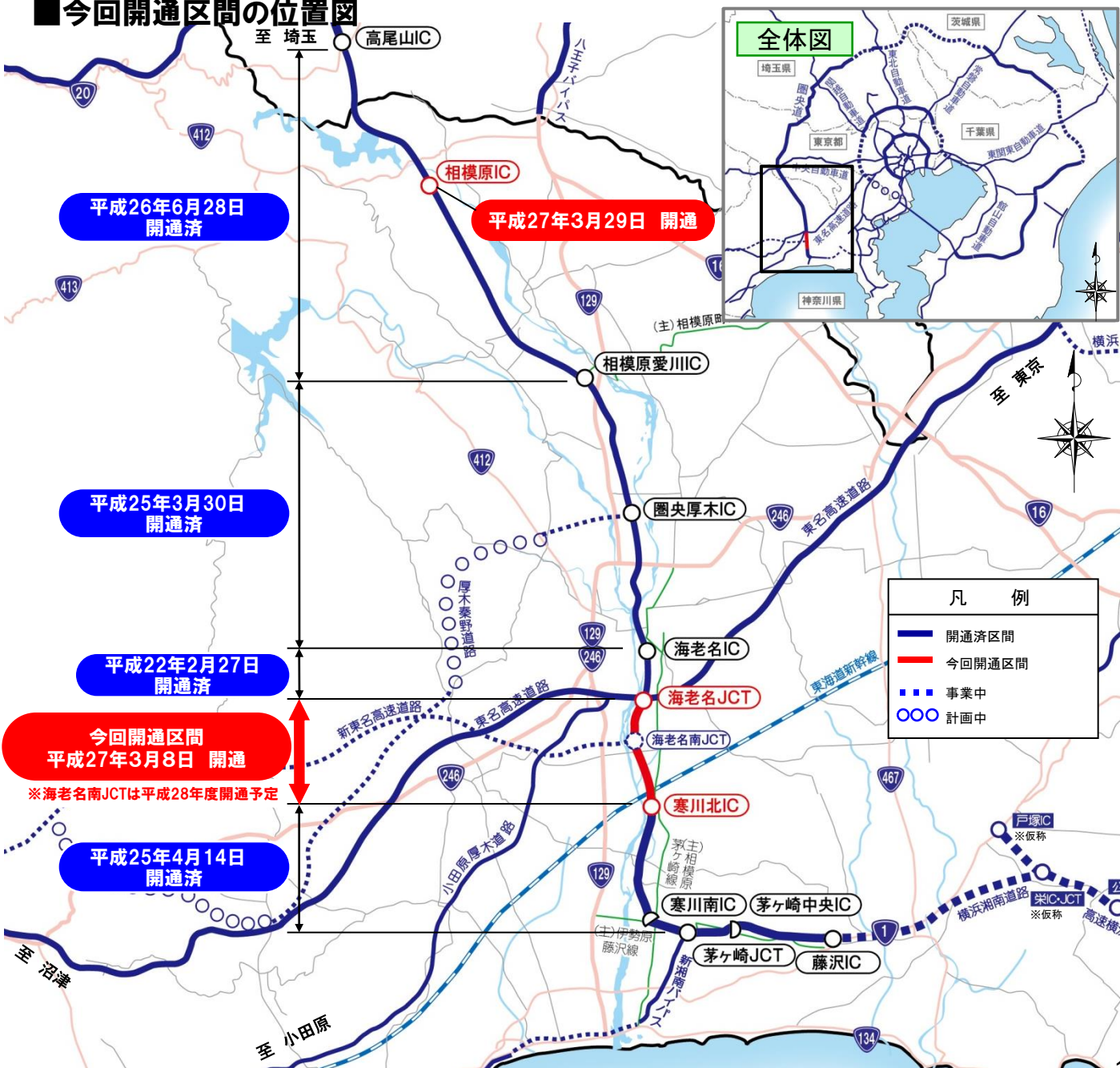
（※海老名南JCTは平成28年度開通予定）

開通日時：平成27年3月8日（日）21時

延長：4.3km

車線数：4車線

■今回開通区間の位置図



首都圏を強化する3環状ネットワーク

- 圏央道や首都高速中央環状線が続々と開通し、首都圏を強化するネットワークを形成。
- 圏央道沿線には企業立地が進んでおり、物流の効率性の向上や観光の促進に期待。

【開通区間】

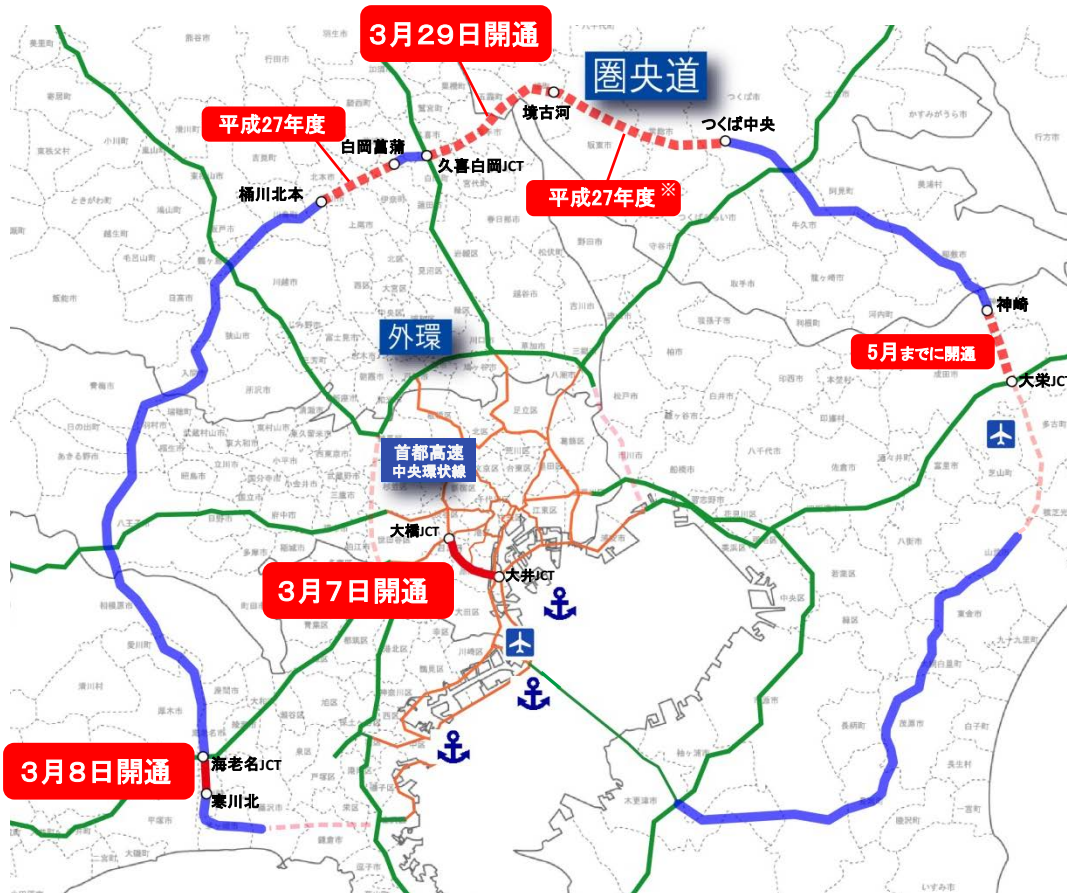
- 3月 7日 首都高中央環状線(大橋JCT~大井JCT)
- 3月 8日 圏央道(寒川北IC~海老名JCT)
- 3月29日 圏央道(久喜白岡JCT~境古河IC)
- 5月まで 圏央道(神崎IC~大栄JCT)



【平成27年度開通区間】

- 圏央道(桶川北本IC~白岡菖蒲IC)
- 圏央道(境古河IC~つくば中央IC)※

※土地収用法に基づく手続きによる用地取得等が速やかに完了する場合



■首都圏3環状の整備による主な効果

圏央道沿線に民間企業が進出

- ・茨城県の新規工場立地件数は全国1位(H26)
- ・開通済区間(関越~中央道)では製造品出荷額が増加(1.2倍~1.7倍)
- ・ネット通販配送センターなど、物流施設も多く立地

渋滞を避けることが可能となり、物流の効率性が向上

空港アクセスが向上し、国内・海外からの観光を促進

- ・三環状により、空港から1時間で行ける観光施設が大幅増(1.8倍)
- ・大型商業施設や国際会議場も便利になり、インバウンド観光を促進

ルート選択が可能となり、災害時等のリダンダンシーを強化

出典) 国土交通省調べ